

1993年度 収支計算書

自 1993年4月 1日
至 1994年3月31日

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I 収入の部				(単位 円)
会費収入	8,500,000	6,650,000	1,850,000	
個人会費	2,300,000	1,750,000	550,000	
賛助会費	6,200,000	4,900,000	1,300,000	
寄付金	4,450,000	3,250,000	1,200,000	
奨励金	450,000	600,000	△ 150,000	
その他	4,000,000	2,650,600	1,350,000	シンポジウム
事業収入	300,000	315,000	△ 15,000	シンポジウム
伏見奨励金取崩	0	117,000	△ 117,000	
有山奨励金取崩	100,000	97,536	2,464	
その他収入				
預金利子	350,000	248,885	101,115	
その他	10,000	0	10,000	
当期収入合計(A)	13,710,000	10,678,421		
前期繰越収支差額	1,010,704	1,010,704		
収入合計(B)	14,720,704	11,689,125		
II 支出の部				
事業費	6,200,000	5,707,628	492,372	
交流事業費	4,350,000	4,256,351	93,649	シンポジウム他
印刷費	700,000	432,704	267,296	
通信費	600,000	611,535	△ 11,535	
物品費	100,000	12,011	87,989	
会議接待費	150,000	120,237	29,763	
交流役務費	300,000	274,790	25,210	
事務費	9,100,000	9,712,321	△ 612,321	
人件費	5,500,000	5,542,886	△ 42,886	
交通費	150,000	150,620	△ 620	
事務用品費	50,000	87,980	△ 37,980	
水道光熱費	250,000	208,359	41,641	
賃借料	2,800,000	3,224,020	△ 424,020	
雑費	350,000	498,456	△ 148,456	
交流基金繰入	50,000	35,000	15,000	
当期支出合計(C)	15,350,000	15,454,959		
当期収支差額(A-C)	△1,640,000	△4,776,528		
次期繰越収支差額(B-C)	△629,296	△3,765,824		

1994年度 収支予算書

自 1994年4月 1日
至 1995年3月31日

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
収入の部				(単位 円)
会費収入	7,200,000	8,500,000	△1,300,000	
個人会費	2,000,000	2,300,000	△ 300,000	
賛助会費	5,200,000	6,200,000	△1,000,000	
寄 付 金	4,350,000	4,450,000	△ 100,000	
奨 励 金	450,000	450,000	0	
シンポジウム	3,600,000	4,000,000	△ 400,000	
そ の 他	300,000	0	300,000	シンポジウム
事業収入	2,400,000	300,000	2,100,000	シンポジウム
伏見奨励金取崩	100,000	0	100,000	
有山奨励金取崩	100,000	100,000	0	
その他収入				
預金利子	250,000	350,000	△ 100,000	
そ の 他	10,000	10,000	0	
当期収入合計(A)	14,410,000	13,710,000		
前期繰越収支差額	△ 3,765,824	1,010,704		
収入合計(B)	10,644,176	14,720,704		
II 支出の部				
事業費	8,700,000	6,200,000	2,500,000	
交流事業費	7,000,000	4,350,000	2,650,000	シンポジウム他
印刷費	600,000	700,000	△ 100,000	
通信費	600,000	600,000	0	
物品費	50,000	100,000	△ 50,000	
会議接待費	150,000	150,000	0	
交流役務費	300,000	300,000	0	
事務費	4,450,000	9,100,000	△4,650,000	
人件費	3,000,000	5,500,000	△2,500,000	
交通費	150,000	150,000	0	
事務用品費	50,000	50,000	0	
水道光熱費	150,000	250,000	△ 100,000	
賃借料	1,000,000	2,800,000	△1,800,000	
雑 費	100,000	350,000	△ 250,000	
交流基金繰入	50,000	50,000		
当期支出合計(C)	13,200,000	15,350,000		
当期収支差額(A-C)	1,210,000	△ 1,640,000		
次期繰越収支差額(B-C)	△ 2,555,824	△ 629,296		

日中科学技術

No. 71

1994. 9. 20

発行所

日中科学技術交流協会

〒152 東京都目黒区八雲2-8-11

第1益戸ビル3F 電話03(5701)4913

1993年度本協会事業並に会計報告

日中科学技術交流協会会長 橋口 隆吉

1994年7月21日に開催された1994年度定期総会において報告された1993年度本協会事業報告並に収支決算報告の概要を以下に報告する。

1. 事業

(1) 科学技術に関する人的交流

① a. 訪中団・専門家派遣(中国滞在費全額中国側負担のもの)

93年6月に、専門分野は原子炉材料で、中国科学院が受入機関となって、金属材料技術研究所筑波支所長岡田雅年氏が、瀋陽の中国科学院金属研究所(所長李依依)の創立40周年記念式典への出席を兼ねて、中国科学院大連化学物理研究所、金属研究所、金属腐食防食研究所、北京物理研究所、清華大学、上海冶金研究所、上海硅酸塩研究所、上海核工程研究設計院、上海交通大学材料科学及び工程研究所を訪問した。岡田氏には初めての中国訪問であり、各分野での中国の研究状況を知ることができ、今後の研究協力について多くの資料が得られた(詳細は本会報No.66参照)。

93年10月には専門分野衛生工学として、同じく中国科学院が受入機関となって、千葉工業大学工学部の瀧和夫教授が中国を訪問した。訪問先の研究機関は、生態研究中心(北京)、水利水電科学研究院(北京)、国際泥沙研究培训中心(北京)、北方交通大学建築・土木系(北京)、長春応用化学研究

所(長春)及び吉林大学環境科学系(長春)であった。

この訪問によって、生態学(エコシステム、生態汚染、地域生態)、環境化学(大気化学、大気汚染制御、水化学、水質汚濁制御、高分子膜など)分析化学(無機、有機、分析機器)、有機合成(雨、農業および生活廃棄物)、土石流による環境荒廃、ダムによる水質源開発の生態系への影響など、多くの生態環境問題についての中国の研究の情報が得られた(詳細は本会報No.68参照)。

同じ93年10月には、専門分野構造工学で、同じく中国科学院が受入機関となって、当時長岡技術科学大学副学長の矢田敏夫先生が中国を訪問した。訪問先は、中国科学院力学研究所(北京)、中国科学院西安分院、西安交通大学、上海硅酸塩研究所、上海交通大学中国科学院上海分院であった。この訪問によって機械構造工学や、土木構造工学(橋梁設計など)、セラミックス技術などについての中国の研究状況の情報が得られた(詳細は本会報No.68参照)。

同じ93年10月から11月にかけて、専門分野表面物理学で、中国科学院が受入機関となって、学習院大学理学部物理学教室荒川一郎教授が中国を訪問した。訪問先は、北京真空物理実験室、科学機器研制中心、物理研究所表面物理実験室、北京大学電子工程系電子物理実験室、上海冶金研究所、

復旦大学であった。

これらの訪問先では、真空ポンプや真空部品の開発、基盤上の薄膜の成長機構、各種電子顕微鏡、表面分析装置の開発、nmスケールでの材料加工技術、イオン注入装置を用いた金属表面改質技術などについて、中国の研究情報が得られると共に、中国人学生や若手研究員のハングリー精神の旺盛なのに感動された(詳細は本会報No.70参照)。

また中国を訪問した各研究者は、中国では各国立研究所に多くの大学院生がいて、それぞれの研究所が修士や博士の学位授与権をもっていることに印象づけられた。

b. 訪中団・専門家派遣

93年9月15～18日、中国瀋陽市の中国科学院金属研究所において、日中科学技術交流協会と中国科学院との共催により、第6回日中科学技術シンポジウム「界面科学の基礎と応用」が開催された。これは李依依所長の開会の挨拶に始まり、3日間にわたり、日本側15名、中国側16名によって32の研究発表がなされた。

日本側出席者は東北大諸住正太郎名誉教授を代表として、東工大井関孝善、東理大坂田君子、九大連川貞弘、東大須賀唯知、東大石田洋一、阪大関野徹、北大成田敏夫、東北大越後谷淳一、長岡技大福沢康、東北大渡辺龍三、金材技研大橋修、金材技研吉原一紘、大阪工技試香山正憲、阪大野城清の各先生であった。

参加者層が幅広い年齢層にわたっており、討論もなかなか活発に行われ、シンポジウムは成功裡に終始した。全般に中国では重点研究設備の充実、研究技術の向上、若手研究者の養成・充実が進み、彼我の研究レベルの格差が縮まっていることが印象づけられた(詳細は本会報No.69参照)。

(2) その他の事業

①シンポジウム・講演会

a. 第6回日中科学技術シンポジウム「結晶の成長と評価」

93年10月19～20日、本協会と中国科学院の共催で、学習院創立百年記念会館で開催された。中国からは16件、日本からは10件の合計26件の論文が

発表された。このシンポジウムでは、話題が発散して討論が散漫になるのを防ぐため、中国で研究の盛んな非線型光学結晶と、日本で研究が盛んな半導体結晶に限ることとした。日本側の代表は学習院大学理学部教授、本協会理事小川智哉先生で、中国側は訪日団長、中国科学院上海冶金研究所彭瑞伍教授で、中国科学技術大学呉以成教授、中国科学院福建物理結構研究所譚奇光教授等が含まれている。両国側の発表演題間の整合は一応取れていて、有益な討論がなされた。

b. 先端材料科学に関する日中シンポジウム

上記シンポジウムが、本協会と日本MRS(材料研究学会)との共催で、93年8月30日、東大山上会館で開催された。ここでは中国側から7件、日本側から9件の発表が行われた。これは、これに続く8月31日～9月4日、IUMRS主催の先端材料に関する国際シンポジウムが東京で開催され、中国全土から37名の著名な研究者が集まることになったので、その機会を利用したものである。日本側の代表者は東大生産技術研究所山本良一教授であった。

c. 「界面科学の基礎と応用」日中シンポジウム

これについては訪中団・専門家派遣の項で述べた通りである。

d. 特別講演会「日中における結晶工学事情の一端」 学習院大学教授 小川智哉

上記が93年7月16日の93年度総会の機会に開催された。

e. 中国人留学生研究発表会

上記が各研究奨励賞授賞式の日で開催された。

②会報資料の頒布

「日中科学技術」(会報)が年4回刊行された。

③協力事業

従来編集、校閲に協力していた英日中工業技術用語大事典が完成、刊行された。

④野上茂吉郎記念交流基金等各研究奨励賞が10名の中国人留学生に交付された(詳細は本会報No.68参照)。

1993年度収支決算報告並に1994年度収支予算については、次頁以降を参照されたい。